



学校だより

平成16年4月9日
市川市立妙典中学校

小さな生命ことば

妙典中保護者

小さな生命が誕生しました。
泣いて眠っているばかりの弟を
いとおしそうにじっと見ているあなた
お姉さんになったのよ
腕がしびれたと言って、悲鳴をあげている
あなたの胸で、小さな生命は
安心しきって眠っています。
お腹の大きい時、辛くて苦しくて
不安で泣いている母を見て
優しくしてくれてありがとう。
あなたも、みんなも、こうして
生まれてきたのと話しましたね。
今は私の片腕のあなた
父にも優しくしてあげてね。
反抗するのはもう、終わりにしましょう
ミルクもおしめも、だっこも、
愛情いっぱい育ててきた父なのよ
父と母はこれからは
あなたを見守っていきまわすからね。
小さな生命ことば

新入生の皆さん、
ご入学おめでとうございます。

すばらしい天気めぐまれた4月9日、新しい中学校生活が今日から始まります。冒頭の詩は、いまから13年前、妙典中学校の保護者の方からいただいた詩です。郵送された封筒の中に「ぜひ、子どもたちに読ませて下さい」と書かれてありました。さわやかで愛情いっぱいの詩にふれて、とても感動したことを、昨日の事のように鮮明に覚えています。小学校の6年間を卒業し中学校に入学できた、その影には、どんな時でも、温かいお父さんやお母さんの愛情に支えられてきたことを忘れないで下さい。一番多感な時期もあり、体も心も大きく伸びる3年間です。困った時には、遠慮せずに、先生や先輩方に相談して下さい。

在校生の皆さん、今日、皆さんは265名の新入生を迎えられました。寂しかった校舎に元気な声が鳴り響いています。「妙典中学校で良かった」「毎日、学校が楽しい」そう言ってもらえるような、立派な、落ちついた学校を作り上げていくためには、先輩方の自覚ある心構えが必要です。みんなで力をあわせて、生きる力に満ちあふれたすばらしい学校を、みんなで協力しながら作っていきましょう。

「わかってあげる」ってどんなこと？

いたいけな子どもたちが、両親の虐待によって命を落としたり、児童相談所に保護される事件が、しばしば報道されています。なんと悲しい時代なのでしょう？自分の子どものことを、わかっているようでわかっていない、わが子でありながら、いったい何を考えているのかさっぱりわからないという話を最近よく耳にします。人のことを「わかる」というのは、いったいどういうことなのでしょう？

教育学者の板東義教先生は『愛はの字から始まる、人間は欠口の生物でもあるが、実は中庸のものでもある。その情を受けてあげるのが愛なのです。』とお母さん、先生にはめられたよ』って学校から帰ってきたら「あらよ、ほめられたの』って言ってあげて下さい』ってというようなおもしろいことを書いています。

子どもが言ったことばの語尾に「の」の字をつけて語せば、情を受けてあげられる。ところが、私達はすぐに「なにを？」と切り返していく。つまり「知」に反応してしまうケースが多いということです。90%くらいがそうで、4%くらいしか「情」に反応する人はいないそうです。親の知識が豊富になればなるほど、一層そういうことが言えるかもしれません。私達、教師の方でも、生徒が「数学の勉強なんか嫌いだよ」と言うとき「なぜ？どうして？」とつい反応してしまいます。「数学の勉強嫌いなの』とまず言ってあげて子どもの「嫌いだ」という情を受けてあげれば、喜びは倍になり、哀しみや痛みは半分になる。そうすると子どもは自然と、なぜ嫌いなのかを話しはじめる。そうして、いろいろ聞いてあげた時、はじめて「わかってあげた」ということになるのだそうです。

少年院の先生の話では、「夜道を親子で歩いていた時、子どもがあやまって溝に落ちてしまった。お父さんが子どもの手を引っ張って溝から出してあげようとして、子どもがお父さんの手を持った時、「お父さん、ほら・・星が・・」と言ったら、少しの間でも一緒に見て「いゃ〜、すごくきれいだねえ」って言ってあげられる親であれば、子どもは少年院などには来ませんよ」という話をされたそうです。

「わかってあげる」ということは、簡単なようで、なかなかむずかしいですね。「知」に働くまえに、「情」を大切に作る心を忘れないようにしたいものです。

やる気にさせるには

